

西部緑地公園再整備構想検討委員会 第1回新県立野球場整備検討部会 議事録

日時： 令和4年9月1日（木）13時30分～15時40分（うち13時45分～14時15分現地視察）

場所： いしかわ総合スポーツセンター 第1会議室

出席者： 検討委員6名、県民部長、スポーツ連携次長、スポーツ振興課長ほか

1 開 会

2 部長挨拶

3 委員紹介

4 現地視察

5 部会長選任

6 説明事項

- ・ 県立野球場の現状と課題

7 意見交換

【青木部会長】

50年に一度、半世紀ということを知ると、今、欲しいものだけではなく、20年後、30年後どう発展していくかを考えながら、思い描いていく、そういう責任もあると思います。

また、その中で、カーボンニュートラルとか、お話ありましたけれども、いやいや、野球プレイヤーにとっては、ここだけは変えて欲しくない。絶対変えない。そういったのも当然あると思います。ですので、そういうことも含めまして、忌憚のないご意見をいただければと思います。

【池田委員】

日頃から、県立野球場を軟式野球の方で利用しております。利用状況として、年間146日間ということですが、グラウンドを使った利用日として、146日でよろしかったでしょうか。

【岩浜課長補佐】

基本的には、グラウンドの利用です。

【池田委員】

検討事項の2番、プレー環境というところありますとおり、12月から3月中頃までは、グラウンド利用ができないということになっています。ただ、冬季の利用期間の時に、これまで、石川県野球協会として、例えば、石川県スポーツ協会の公認指導員の講習会、或いは若手指導者研修チームということで、講習会などをしておりました。ただ、そのときに、どうしても実技のところ、広く、雨天に関わらず、実技ができる、いわゆる室内練習場というのを、求めています。なかなかその確保が難しいということもあって、講習会は大体参加人数50名とすると、座学ができる会議室の広さ、実技ができる広さ、室内練習場の施設を強く希望したいと思います。

室内練習場については、例えば、第2試合以降のチームは、アップする場合、この現状では、多目的広場、或いは中学校なんかですと、横にあるソフトボール場をアップ会場として使ったことはありますが、今年7月の、中学校の北信越ブロック大会では、どちらも使えないということで、試合と試合の間隔をちょっと空けて対応し

ましたが、やはり、スムーズに第2試合以降に行く時には、室内でできる会場が、大会運営としてはしやすいと。ですから、私としては、室内練習場をより充実をしていただきたいなと思います。

【青木部会長】

やはり、この石川県の天候ということを見ると、室内練習場、それから会議室を考えていかなければならない。

【村戸委員】

県立工業の校長をしているわけですが、私は体育教員ですが、専門は野球じゃなくてサッカーで、そういった視点もあればいいかなと思っております。

ただ、高野連としても、この資料の課題と再整備の方向性にあります、県立野球場の方向性、やっぱりこの4点は、そういった観点が必要かなと思っております。

スポーツですので、する側プレイヤー、見る側観客の問題、支える側、運営する側の問題、そういった視点をしっかり入れながら、野球場整備進めていただければありがたいなと思います。

資料の中にもありましたけども、高校野球の聖地という形で、おそらく5割を私どもが、県立野球場を活用しているのかなというふうに思います。選手、生徒たちも、やっぱり県立野球場で試合したいと、特に夏の大会の1回戦は、弁慶とか金沢市民とか使っていますが、やっぱり試合は県立でしたいと、せめて写真だけは、県立で取らせてくれというような野球部員もいます。そういった意味で、ここに書いてあるようなそういう聖地になるような、野球場になればいいなというふうに思います。

今ほども話ありましたが、会議室とか、そういったところ充実は、いろんな面で野球関係者が集まって色々な会議をする。我々高野連の会議なんかもします。この野球場にきて、そういった会議ができる、講習会ができる、野球関係者がどんどん集まる場所になればいいかなというふうに思います。

あと、高野連は春夏秋と、チケットを売って、入場料をもらいながらお客さんに入らせていただいております。そういったチケット売り場とか、そういったところはプロ野球もあると思いますが、そういったところの関係の整備、或いはそれに伴って、結構決勝戦とかなりますと、もう早く、高校野球ファンが球場の前にザーッともう、並ぶというようなところでの、そういったスペースとかも考えていただけたらと思います。

先ほど、室内練習場の話もありましたけども、今のところを県立ですと、先ほど言われた多目的とか、そういったとこ使ってアップしていますが、金沢市民野球場と比べると、金沢市民野球場の周りにアップするところがないというところで、そういった試合間隔を広げてくれというのが、各校から要望等があります。

今のところ、そういったするところがあるので何とか、試合間隔を詰めた形でやっていますが、先ほどもありました、雨とかそういうことを考えると、室内練習場が必要になってくると思います。多分これは、観客席がたくさんできると、その下のスペース、面積も増えるので、いろんな施設が、その下に、持ってくることもできるのかなと思います。

【青木部会長】

今は動線の整備、それから、せっかく来ていただいているので、気持ちよく過ごせるような、待機所の整備なんかが必要なんじゃないかというようなお話でした。ここで、全国のスポーツ施設に精通されている小菅委員に、今のようなことを踏まえて、全国の施設がどのような状況になっているのか、教えていただければと思います。

【小菅委員】

ご指名いただきまして、法人名称が日本スポーツ施設協会ということで、いかにもスポーツ施設、いろいろ知っているという、そんなイメージ。全くそんなことはないですが、そういう名称のもとに勤務しているところでございます。

ただし、いろんな方々に申し上げていますが、我々のスポーツ施設協会の方で、毎月月刊体育施設という冊子を発行しております。その中に、編集者の1人が極めて野球好きということで、毎年4月号は必ず野球の施設の特番的な、そんな紹介もしているところでございますが、実は今日、カラーじゃなくて白黒でちょっとその部分だけ印刷したものを、電車の中で読もうかなと思って持ってきましたが、そんなところを踏まえまして、私、ちょっと前職のところでは、ナショナルトレーニングセンターの設置関係であるとか、或いは国立競技場の場長もしていたこともあります。そしてまた、皆様ご存知のとおり、新国立競技場においてザハ・ハディド案が、白紙撤回になりまして、その後のところでは、直接担当はしていなかったわけでありまして、その財務経営戦略というところで、いつもハラハラしながら、早く完成ができればいいなというようなところを見てきたところ。そして、最近のところでは、前職、関わりのあるところで8月20日に秩父宮ラグビー場が、建設から、そのあとの管理運営に至るところまでを、PFI方式でということで、業者が決まりましたという報道がなされていたところでございます。そんなところに、身を置いていたというところはあるかもしれませんが、それほど知っているわけじゃないと。

しかしながら、この資料に沿って申し上げるならば、ちょっと3枚目のところ、現状についてというところがありますけれども、まず、誰が考えても、先ほども説明が、現地での説明もありましたけれども、大きさはもう、プロも使える、誘致というのはなかなか難しいということもあると思いますが、これはもう、それに合わせるというのが、議論の恐らくないところかなというふうに思っております。

そしてまた、観客数もそれなりのものということで、先ほどもお話出ておりましたけれども、当然長さを、ライト・レフト方向の長さが今、10メートル弱ぐらい足りないということで、伸ばせば当然、他の空き地のところまで攻め込むということもありますけれども、観客数が増えればその下の、諸室としての利用も可能になってくるかというところでございます。

そして、また、仕様のところがありますけれども、ここに天然芝とこう書いてありますけれども、今、現状は天然芝であるということがありますけれども、これは決定事項でしょうか。それとも、お隣といいましょうか、金沢市民野球場の方が、先ほど申し上げた、体育施設の中では若干取り上げておりますけれども、ロングパイルの人工芝ということで2021年に改修が終わったというところでもあります。そんなこともあるので、これはどうなのかな。目指せ、高校野球の聖地ということであって、甲子園と同じような作りにしたいということであるならば、それはそれなんでありましようけれども、そんな感じがいたします。

それから、利用の状況のところでは、野球場ということであるので、当然と言えば、当然かもしれませんけれども、野球以外の活用がないということがありますので、賑わいと言っても、結局この緑地公園全体での賑わいということなのか、野球場そのものも単体で賑わいをということであるならば、今、当然流行のボールパークとか、北海道でもそのような、今、現在作っているところがありますけれども、そういう作りだって当然あると。そうなってくると、なかなか北海道の場合は、自動的に動くという、ドーム型ではない。移動式ドーム型的なそういう造りであるわけがありますけれども、そうじゃなくても、まさに雪が多い、雨も多いということになると、考えの方法としては、経費の面を度外視すると、ドームだっていいのではないのかとかいうことになるし、ド-

ムであるとなかなか光と、水と風というふうに、生芝の場合には3要素というふうに言われておりますので、そんな時には、当然、天然芝というよりも人工芝ということ。人工芝もかなり改善されておりますので、天然芝の方がクッション的な役割、そしてスライディングしたときに、人体というか、人の皮膚を痛めない、そんなことも言われておりますけれども、今現在のものは、かなり改善されているということでございますので、そんなこともあるのだろうなあというふうに思いますし、そしてまた、金沢、県内に、もう一つの野球場で、あちらは1万人というふうに、いろんなところに書かれておりますけれどもそんなところとの供用といいたいまいしょうか、そんなことも必要なのかなということをおもっております。ということなので、欲張りを申し上げますと、金銭感覚を度外視すると、先日、親委員会のところで、馳知事がおっしゃっていたキーワードは、風土とか、という言葉がちょっと頭に残っているのでありますけれども、野球場だけということであると、いろいろ申し上げたが、屋根つきもあるのではないかとか、人工芝でもいいのではないかと、そして、芝生のところで、ヨガ教室とか、そんなことなんかもやっているところいっぱいあると思っておりますが、そんな中で、野球だけのところで人を呼び込むというのは、スタンド増設の他にないかなというふうに思うし、それだけでいいのかみたいな感じも、ちょっといろいろ、全国のものを見てみると、そう思ったところであります。

【酒井部長】

今ほどのちょっとご意見の中で、ちょっとご質問的なところもありましたので、私の方から、ドーム型球場、いろんな多目的な使い方ができるということで、大変いい施設だと思っておりますが、今回の再整備の場合には、あわせて産業展示館の整備ということありまして、いわゆるそのドーム型球場でやっているような、野球以外の使い方の部分は、産業展示館の大型化、きちっとまだ決まっていませんけど、例えばコンサートとかいう、そういう検討もされるということなので、その辺で対応できるのかなと思っております。一つ、小菅委員が、まさにおっしゃったこともあります。ドーム型にすると相当お金もかかるし、産業展示館との役割分担の話もあるということで、今ここでは基本的にはドーム形状というのは、考えてはおりません。日本の中のドーム球場は基本的には、プロ野球球団の経営している球場ということで、相当の収入があるから経営ができていいるところもあると思っておりますので、ちょっとやはり地方球場ですので、そこは考えていないということが一つ、またドーム球場であれば、人工芝ということになってきますが、今度はドームじゃなかった場合に、人工芝と天然芝と両方考えられるわけです。そこは、今の時点では、こちらですというのは、まだ決めておりません。まさに、こちらの部会でご議論いただきたいとは思っておりますが、やはりメリット・デメリットはあると思っております。そこも、今日はまさに、こんなことを検討していきますというご紹介と、フリートーキングに近い話でしたけれども、次回以降に、その辺りのメリット・デメリットみたいなものを含めて、例えば天然芝だったら、選手、プレーにどうなっていくとか、そういったものも含めて、もう少し議論が深まるような資料も少しご用意させていただこうかなと思っております。

【青木部会長】

今、ドームは、少し無理かなとお話がありました。ただ、天然芝か人工芝は今後、検討していくということで、委員の皆さんにも、少し調べていただいて進めていきたいと思っております。

それから、もう一つ、収容人数、観客席の問題がございました。事務局の説明では、富山、新潟3万人、松山も3万人、そういう3万人に私たち誘導されているみたいですね。それはどれぐらいの人数が適当なのかということ、やはり周りを見ながらということになると思っておりますが、これもまた皆さん、他の球場、今お話あったのは

プロ野球のない県の、球場を少し見ていただきたいと思います。

【酒井部長】

その辺りについても、他県の例も当然いろいろあります。地方球場として、ざっくり考えると2万5千から、多分3万というのが、普通の地方球場のキャパのようです。

一方で、あまりに実際に入る人よりも、大き過ぎるのを作るというのもあるでしょうし、いや作ってみたらもっと思っている人が来ちゃったっていうのもあれですので、やはり少し、一定の需要予測みたいなものを、できる範囲で調査的にやってみた上で、そういったところも含めて、また案として、お諮りいただくような格好にしたいと思います。

【青木部会長】

今のような、芝の問題。それから、幾つかありましたけども、ここでは唯一、当然、野球場を造る上で、プレイヤーファースト。当然当たり前の部分。顔ぶれ見ますと、唯一、現役、松本委員からご意見をいただけたらと思います。

【松本委員】

選手目線でお話させていただけるとしたら、大概、私たちが試合する時は、次々、試合のスケジュールがあるわけです。終わったらすぐ出て、次のチームが入るとなった時に、ご存知だと思いますが、野球って道具が山ほどあります。それを、チームが出るまで待っていなければならない。あとは、その道具を、その辺に固めて取られないように誰か見張りをつけてですね。もう下手したらカラスに、スーパーの袋取っていかれるというの、たびたび見ます。ちょっと、どこか失念しましたが、選手の控えがもう一つあるっていう球場にいったものもありまして、そうすると安全に自分たちの道具をそこが部屋に置いて、ウォーミングアップなどができます。

あともう一つですが、この間、江戸川球場で試合させていただきましたが、ベンチに入るための通路と出る通路があります。そうすると、とてもスライドでうまく、移動ができます。待つなくていいんですよ。長いこと、相手チームというか、前の試合の人たちが待つなくてよくて、そして自分たちは何と、エアコンのついた部屋から試合が見られるという、待機しているところが涼しいという、広くはないですが、とても恵まれたところですよ。球場もおそらく古い球場なので、そういう裏の施設とかは、言ったらちょっと、あんまり綺麗ではなく、ただ、コロナの間にいろいろ手を加えたという変化がありまして、そういう空調とかもありましたが、全然スイッチ入れても、全然風がこないエアコンから綺麗な大きいエアコンになっていて、きっと待っている選手たちのことを考えて、そういう設備を整えてくださったというふうに思いました。そういう動線のことを、選手目線からすると、あるとないじゃ大違い。あと、やっぱり着替える場所が大概、どの球場にいても、トイレです。トイレで、すごく狭い個室で着替えなきゃならないっていう。シャワールームがある球場もありますが、もうオープンです。やっぱり目隠しがちょっと曖昧で、そういうところで少し、別に、女性用が作ってくれとは言いませんが、少し隔離された、目隠しのある、そういうお部屋があると、着替えが楽かなというふうに感じています。

あとは、テンションが上がる瞬間がありまして、ロッカールームのロッカーが格好いい時は、ウォーと思えますね。ちょっとメジャー仕様の金網の感じでちょっと広くて、座れて、ユニホームも掛けられて、道具も置けてとなると、この球場最高だなとなって、また行きたいなというふうに感じます。数とかじゃないです、偉い人から座ればいいのかと思っているので、なのでそういうふうな施設でちょっと、他と違うっていうのが見ると、ここ

の球場すてきだなというふうに、個人的にはすごくテンションが上がります。

選手目線でお話をさせていただくと、今気が付くことは、それぐらいです。

【青木部会長】

今、少し遠慮なさって、着替えて仕切りがあればいいんですけど、ある女性の更衣室もないなというような球場はちょっと、これは考えられない話ではないかなと思いますが、やはりそこはもう、やっぱり必要で、時代っていかその当たり前の話だなと思います。大変遠慮されていました。それだけの代わりにお話しさせていただきます。

それとですね、今は球場視察させていただいて、全くというところちょっと失礼ですが、バリアフリーに対する配慮というのがないというくらいに感じました。その辺は、田中委員どうでしょうか。

【田中委員】

全くですね。私ども石川県身体障害者団体連合会という、県内の身体障害者の集まりですが、私は脊髄損傷で中等障害ですが、他にいろんな障害の団体もあります。ここにも、書いてあるように、持続可能な公共施設のマネジメントということで、我々がいろんなところで言っているのは、バリアフリーよりかユニバーサルということで、今ある球場を直すことはバリアフリーですが、いろんな人が、障害のある箇所に関わらず、今言われる、男性、それ、いろんな方々が使えるようなふうを考えてもらいたいというようなことを思っております。

まず、最近、県の新しい図書館もできまして、もう、ユニバーサルなデザインになっていまして、私も見学させてもらいましたけど、そういうものの観点から、設計をしていただきたいというようなことでございますね。例えば、先ほどトイレの話出ましたけども、最近、俗に言う多目的トイレというものがありまして、全部そこに機能を集中されます。そうすると、ずらっと行列ができてしまいます。我々が言っているのは機能の分散化といって、実はこの、スポーツセンターも、2008年にできましたが、このトイレが、例えば、私、車椅子のバスケットボールで、石川国体に出場させてもらって、大きいトイレはいいところですが、ここも、例えば普通のトイレでも、私がかこう入れるような感じで、機能分散してあります。そういうふうな設計で、もちろんそういうふうに重度の方はおられて、いろんな最近なら、ストマ装具されている方々もいらっしゃると思います。そういう処理するようなところもあれば、ただ、あんまりそこに集中させちゃうと、皆そこに行っちゃうので、ずっと時間が掛かってしまうと、だから我々みたいに自分で何とかできるようなものは普通のトイレにちょっと広くしてもらえば、簡単に入れます。

あと、もちろん駐車場なんかも、名前をつけてもらって、スムーズに入るようにしてもらえば、ありがたいかなというところでは。

あと、やはりさっき見せてもらった、車椅子と言ったら、下から見る。もちろんエレベーターをつけてもらって今やったら、上から見られる、そういうような管理していただければ。また、最近内野スタンドのファールグラウンドに身近に見られる席があります。先日ちらっと、今度こういう会議に出るといふのを言ったら、そういうところを、僕らが行って見られるようにしてもらえるとありがたいというリクエストもございました。

本当に車いすだからじゃなくて、いろんな人が入れるように、ユニバーサルというか、そういうものの考え方で造ってもらえれば、ありがたいかなと思います。

最後に、さっきベンチについて、今後先ほど50年間は、これを造れないのではないかな。50年ぐらいのことはわからないですが、うちの会員の中には、元気な時に野球をやっていた方もいます。将来、車椅子に乗って高校

野球の監督やりたいという人も出てくるかもしれません。だから、そういうところにも、ユニバーサル、車椅子に乗って監督ということも、そういう方も出てきてもらいたいなと思います。

【青木部会長】

今のご意見、多目的トイレは一般的であるし、それ以上の発想はあまりなかったですが、機能分化させる。大変勉強になりました。ぜひ、議論していただきたいと思います。

それから観客席の問題ですが、私が勝手に言っているのか分かりませんが、2番目の検討事項の中ですが、多く見られるのは、今お話されたら、一番下と言いますか、相撲で言う砂かぶりのようなところで、車いすの方に見ていただく。それから、内野席なら一番上の通路で見ていただく感じのものが多く。

一緒に喜びたいということがあると、例えば、1階、2階、3階があったら2席目は抜いて、一体となった形で車いすが入れるように、だから前に後ろにも、一般のお客さんが入るような設計も考えていかなければならないと思います。

みなさんのご意見をいただきましたが、みなさんそれぞれの意見を聞いて、ご発言があれば、いかがでしょうか。

なければ、色々と、みなさんからご意見ちょうだいして、ありがとうございました。

今、みなさんから、室内練習場、会議室の充実、それから、高野連からは待機所の整備、それから、天然芝から人工芝という問題、それから、通路動線をしっかり考えた設計が重要であると、それから、ユニバーサルデザインを配慮したものにしていただきたいと、お話がありました。これから、先ほどから言っておりますが、50年に一度となりますと、ここで話ししたことが全てではありませんが、問題・課題をその都度、ご意見をいただきまして、よりよい県立野球場を造っていきたいと思っております。

最後に、親会に参加させていただいて、駐車場の問題は親会でしっかり議論されていくと思います。ということをご報告して、事務局にお返しします。

8 閉 会

【岩浜課長補佐】

それでは、皆様貴重なご意見いろいろとありがとうございました。

これをもちまして、西部緑地公園再整備構想検討委員会、第1回新県立野球場整備検討部会の方を閉会させていただきます。みなさま、大変お忙しい中、ありがとうございました。